

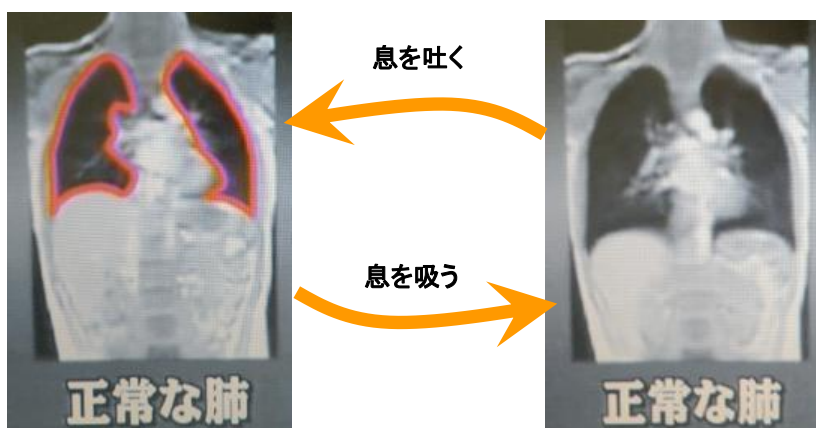
## 週刊 タバコの正体

タバコを吸うと血管を痛め、その結果“動脈硬化”や“心筋梗塞”、“脳梗塞”の原因となる事をわかってもらいましたね。しかし、タバコの煙が一番多く入り込むのは“肺”なので、長年タバコを吸い続けるとCOPD(慢性閉塞性肺疾患)という病気にかかる人が多くいます。

肺は心臓と同じく、起きている時も寝ている時も、常に身体に必要な酸素を取り込むために動き続けています。息を吸って吐くためには、肺は縮んだり膨らんだりしなくてはいけないのですが、20年も30年もタバコを吸い続けた肺は、下の写真のように、縮む事も膨らみ事もできなくなってくるのです。これがCOPDという病気です。

怖いですよ。息ができなくなるのですから。症状が悪化すると酸素ポンペがないと生活できなくなるそうです。でも、心配はいりません。タバコに手を出さなければいいだけです。

産業デザイン科 奥田 恭久



正常な肺は、息を吸い込めば大きく膨らみ、吐くと小さく縮む。